



# ららばい通信

2025年  
夏号

## 特集 居場所



画／大野隆司

### [ 目 次 ]

■ 唄のページ	…1	■ COLUMN／親になるあなたへ	山折 哲雄 …14
■ 特集「居場所」	…2	■ 男のひとり料理	永瀬 嘉平 …15
・野口忠行画伯の居場所	近藤 征治	■ 連載／日本子守唄紀行	
・10代までの記憶に未来を導かれて	村田 広平	■ 長念仏の由来(山形県新庄市)	鶴野 祐介 …16
・思い出の場所	ななこ	■ 連載	
・居場所ってなあに	西館 好子	■ これぞ! 生きる事なり	帯津 良一 …18
■ 連載／わらべうた 童謡 詞華抄11		■ 連載／直島便り	
かるた 兎角子共達 続	尾原 昭夫 …8	■ 4度目の「瀬戸内国際芸術祭」体験	山根 光恵 …20
■ 連載／子ども虐待は、今		■ 活動報告	…21
児童福祉生活50年	川崎 二三彦 …12	■ 寄付者名簿	

令和7年  
ららばい通信 夏号を  
お手元にお届けさせていただきます。

美食飽食を常としていた私たちの暮らし。しかし誰もがそうだったわけではなく、物価高や年金暮らしの方たちが青くなった主食の「米」の高騰はまさに異常事態でした。

大臣が変わったとたん、あつという間に安いコメが市場に出回り、じゃあ、今までの騒ぎは何だったの、とあつけにとられるばかりです。減反政策の答えが出たなど今更言われてもそんなことは大分前から分かっています、それでも農業、大事な米は「いつか不足する、いつか不足する」と呪文のようにとなえられつつも、こうなるまでは抜本的な手の打たれ方はなにもしてこられなかったのかも。

瑞穂の国、農業大国の日本はいつの間にか、農業軽視、農業凋落の中に押し込まれてしまい、とうとうこんな事態になってしまいました。かつて日本民族は農耕民族、一粒の米、一粒の麦は命の源と教わった記憶があります。伊勢神宮、出雲大社のあの巨大な稲のしめ縄にみる威厳の中に祭られた神殿こそ国と大地の象徴であり、農業の神がいるとも教えられたのは、修学旅行のときだったでしょうか。

この先、おいしいお米だけは何としても守り、不安のないようするにどうしたらよいか、この騒ぎを機に私たち全員が考えなくてはならない時期がきたのだと思います。

米だけではなく、精霊の宿る命という食べ物にもっと謙虚に向かい合い大切にしなければならぬはず、毎夜毎夜夜中にトラックに積まれていくコンビニのお弁当は食品ロス、根本的な食の改善も私たちの大きな課題になってきたと痛感しています。

日本子守唄協会 理事長 西館好子

唄の  
ページ

「あばばのば」

堀内 德行

あばばのば あばばのば  
かわいい 赤ちゃん お元気ですか  
あばばのば あばばのば  
ここにこ 赤ちゃん ご機嫌です  
ゆりかご ゆらゆら 揺らし  
お手を 握って バンザイ  
お顔を つけて チュチュチュ  
抱っこして お空へ 高い高い  
うれしいね 楽しいね  
大事な 赤ちゃん  
あばばのば あばばのば  
お寝んね 赤ちゃん お元気ですか  
あばばのば あばばのば  
お目を 開けて ご機嫌です  
おっぱい いっぱい 飲んで  
お手を 叩いて バンザイ  
よちよち 歩いて 一二三  
あんよは お上手 早く早く  
うれしいね 楽しいね  
大事な 赤ちゃん

「母は待つ」

タイ民謡  
作詞者…小林純一

わが子よ おまえは どこに  
月が かけるといふのに  
灯りを ともして 今日も  
窓を 開いているのに

「トマト」

作詞者…北原白秋  
作曲者…弘田竜太郎

麦わら帽子に トマトを入れて  
抱えて歩けば 熱いよ おでこ ララ  
ラッタラ ラッタラ  
ラッタラ ラッタラ  
お日様きついでよ お昼のみち  
父やは どこか訪ねてみましょ ララ  
ラッタラ ラッタラ  
ラッタラ ラッタラ  
ちちやのこうしは ポプラの下で  
短い角だよ お昼寝してる ララ  
ラッタラ ラッタラ  
ラッタラ ラッタラ

「風」

作詞者…西城八十  
作曲者…草川信

だれが風を見たでしょう  
僕もあなたも みやしない  
けれど この葉をふるわせて  
かぜは通り抜けていく  
だれが風をみたでしょう  
あなたも僕も みやしない  
けれど 木立ちが頭を下げて  
かぜは通り抜けていく



シリーズ 賢女―祈り⑤

杉坪薬師(日光寺)

国見 修二(詩人)

父に背負われ身重の母と願掛けに行った  
視えなくなった五歳の私

〈開かない目だね〉と宣告された

諦めきれない母は嵐のような心で

〈治して下さい 治して下さい〉と

一人籠って願掛けし

池のタニシをも驚かせた

治る人もいた

〈私の目は開かなかった〉

母の心想うと切なくて

杉坪薬師さまに

〈お母さんを守って〉と



はしかを患い医者の誤診で失明した。それでも母は諦めきれず一緒に杉坪薬師に祈りに来た。

上越市日光寺賢女・杉本キクエさんも祈りました。

# 居場所

## 野口忠行画伯の居場所

画家 近藤 征治

日本のみならずペルーで有名な野口忠行画伯、近藤征治氏は日本子守唄協会初代会長で詩人の松永伍一氏の教え子です。ともに九州出身、絵画は三人を結びつけました。

### 野口画伯との出会いと縁

松永伍一先生の著作「縁ありて人生たのし」の中に「人との交わりは明らかにドラマであり、双方が主人公の役割を果たしていることになり、どちらにウェイトがかかっているか判断に苦しむほど微妙なものである。だから、たのしい。」とあり、松永先生と野口画伯の交わり、そしてそこに私がこの二人の師と出逢う事になったのは、どこか自分の知り及ばないところで約束でもされていたかのように感じられ、必然であったであろうと思うのである。

2000年練馬の松永先生ご自宅を訪問した際、先生から「帰省することがあったら野口画伯にお会いしなさい」と勧められた。そこで翌年2月、野口画伯の奥様とご子息が営む福岡県大川市のお食事処を訪れた。カウンター越しでの初対面でありながら、気さくに応対して下さい、如何にも絵描きそのもの顎髭顔姿、方言丸出しで直ぐに打ち解けることが出来た。

同郷の獣医でおられる富安俊栄先生(2019年91歳没)は、インドの貧しい子供達の為にコルカタに野口先生と同じく学校3校寄贈された。

野口先生は富安先生より10歳ほど年下であるが、二人はとても仲良しで、各々の精神的居場所を求めて行動されたことは一緒であろうと思われる。

お二人は「俺達二人で時々話をするんだけど、みんな俺達たちの行動にあきれて驚いている。自分達の生き方考え方は間違っていないし、何故だか誰にも解らない魅力を感じるし、自分の居場所を求めている行動だね！」と笑いながらおっしゃっていた。



### 居場所求めての旅

野口画伯は1938年福岡県大川市で生まれ、家業は大きな料理屋を経営、子供の頃はお坊ちゃん育ちだった。しかし小学校1年生の時に終戦となり、父は兵隊にとられて家業は転落してしまう。

しかし中学時代、他人が描かないような絵を描いて美術の先生から褒めて貰ったことが、絵の道への原点になり、このことが自分の心の拠り所となった。

武蔵野美術大学へ進み、卒業後は地元大川市の中学校の美術教員として勤めたが、30歳で教員を辞め、世界中の後進国(モロッコやメキシコ等10数ヶ国)を目ざして放浪の旅をスタート。南米ペルーには30数回訪問され、アンデス・インディオの生活をモチーフに永年絵を描き続けておられた。



美しい心を抱いて、かれは故国の土に戻ったのだ。「人間、この大なるもの」の、その重みを画布の上に載せて来た。私がかれの精進をよろこび、自分の宿題を解きはじめてかれの自信のある表情を讀みたい。これからは、「工夫ではなく発見へ、表象より内面へ」と、謙虚にきびしく追及の歩を進めてほしいと希う。

ペルーで出会った人々と学校建設寄贈  
南米ペルーの原住民インディオ達は日本人と同じモンゴロイドであり、乳幼児には蒙古斑が現れる。同じ人種という事もあり、人間的温もりを感じる。

その上、昔から日本からの移民が多く現在では二世三世の人達が沢山いて、親しみを感じるのである。

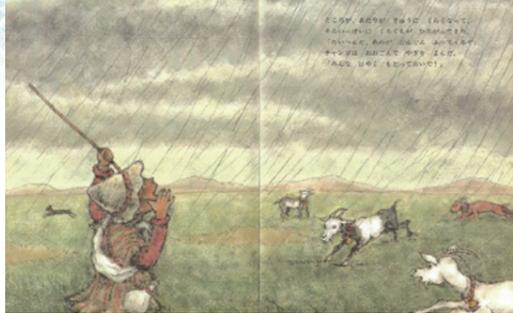
アルベルト・フジモリ元大統領は両親が熊本県出身の日系2世で、1938年、ペルーの首都リマで生まれ、1990年に日系人として初めてペルーの大統領に就任しました。野口画伯はフジモリ氏とは歳が同じこともあり永年親交が深

### 居場所を求めて南米ペルーへの旅立ち

◇画業50周年(南米ペルーの旅30年)  
野口忠行作品集、挨拶文より

1981年家族4人で全く未知の国、南米ペルーへと旅立ちました。マンネリ化を恐れ、新しい刺激を期待しての出発でした。そして30年の月日が流れました。余りにも移り変わりの激しい30年、そして私自身も11時間半の大手術後奇跡的に生かされ21世紀を迎えました。先進国の仲間入りした日本は驚異的な速さで経済発展をとげ、物質的価値判断が豊かさへの物差しとなりました。その結果、人々は本来最も大切な精神的豊かさを失いぬくものがない無感動な生活に慣れ平気で自然を破壊し続けます。

描く事のみ生活を繰返す私には、時としてそのあまりにも急ぎ去り行く生活の変化についていけず息苦しくなり悲しくなります。そんな時、遠いアンデスの輝く太陽と心地よい風、そして悠久の昔から変わる事のない自然崇拜、自然共存の生活を営む純朴なインディオ達に会いたくありません。



その結果が28回目のアンデスへの旅となりました。今の日本が失った

大切なものを与えてくれ癒されます。素直な気持ちで受入れ、我が友インディオ達に幸多かれとの愛と祈りを込めこれからも終わらなき旅は続き彼等を描き続ける事でしょう。

野口画伯「絵とペルー」の居場所に  
夢と希望を与えてくれた松永先生。

◇1982年発行インディオの唄  
「野口忠行画集序文」松永伍一「精進の軌跡」より  
人はこの世で果たすべき自分の宿題を一つだけ背負って、ひとりで生れてくるものである。天が与えてくれたこの宿題に気が付かず終わってしまいう人も多いが、なかなか気づきにくいものである。

美術家ともなれば、その宿題の解明のために身を削るのだ。世の常識をふり切り、はげしい狂気の中に魂を投げ出す。そこからしか事が始まらないと自覚して歩き出す者だけが、真に芸術家の栄光を約束されるであろう。

野口忠行は、今ようやくその道の入口に立ったと思う。同じ筑後に生を受けた私がかれの画業の一端を知り注目してきたが、可能性を感じつつも独自の境地をまだ見出せずにいた。そのかれが1981年春にペルーに渡った時、私はひそかにある種の成果を期待した。何かといえぱりに行く画家たちを私は信じていないから南米ペルーの太陽に魅せられて旅立ったかれの壮途に祝福あれと祈ったものだった。

10ヶ月の旅を終えて帰ってきたかれは「一つの世界」を自身の肩にしっかりとつかいで私の前に立った。いのちを燃やして生きるインディオの宝石よりも



く、2024年夏には最後の訪問になるだろうという思いで再会を果たした。だが野口画伯が帰国して数日後の9月11日、87歳で逝去されたことをニュースで知り、悲しみの声が電話の先から聞こえた。フジモリ氏が監獄の中で描いたクリストの油彩画を野口画伯は大事に所蔵されている。

野口画伯は2017年90歳で帰天された加藤マニエル神父とも交流が深かった。「炎の人」の著者でペルー日系人の加藤神父のご両親は、日本で結婚後ペルーへ移住した。神は加藤家に苦難を与えたが、マニエルに生を与えた。その人生は極貧の環境苦難を背負いつつ神の道を歩む修道者そのものであった。貧しい人々に愛を与える母親の教えを実践し、清貧を貫いた生涯は、ペルー日系社会の至宝であった。野口画伯は親交を深める中でマニエル神父の生きざまに自分を重ね、生き方を学び心の拠り所ともなっていたに違いない。



「アンデスの母と子」F100号2000年作  
2025年日本子守唄協会へ寄贈  
(群馬県下仁田ねぎぼうず館に展示)

似顔絵というジャンルの中で、その人のバックボーンの深さを推測していたたければ、どんなにうれしかれません。



印象に残る「忘れえぬ女」

QUICK PORTRAIT 似顔絵  
村田 TEL: 090-4948-9401

## 思い出の場所

ななこ

私はレンタルビデオ屋が好きだった。

レンタルビデオ全盛期の頃の私は子供だったため、家族の前で鑑賞できること、ウケがいいことが条件だった。ドキドキしながら選んだビデオテープは、私の評価とイコールだった。

私はあきらかに「人気がありません」というコーナーも好きだった。

どんなにマイナーな映画でも、聞いたことのない

野口画伯は、初めてフジモリ大統領に招待され「この国を発展させるには子供の教育である」というお話を伺ったことをきっかけに、インディオの貧しい子供達の姿を見るにつけ、インディオ達の姿の絵を描き続け、売上金で2校の学校(1993年・1996年)を建設寄贈され、3校目も教員時代の教え子達の支援を得て建設寄贈された。

### 現在の居場所

居場所を求めてペルーへ旅立ってから45年。太陽神を崇め自然崇拜のインディオの人々に溶け込み、また日系ペルー人との交流、アンデス・イン

## 10代までの記憶に 未来を導かれて

似顔絵画家

村田 広平

私が絵を描き続けているのは、絵画への興味や、幼少期に過ごした北海道札幌でのさまざまな体験、絵本や読み聞かせを受けた体験が非常に大きく、至高の喜びや世界観を見直し、生きるヒントを汲み取っているのだと思います。

ロシアのイワン・クラムスコイという画家は、「忘れえぬ人」との邦題がつけられた絵の作者。タイトルでも、私が選ぶのが選ばなからうが、委細関係ありませんという顔をして棚に並んでいる。誰に借りられずとも「ある」というだけで価値を持つその迫力に、子供の私はいつも気圧されていた。

その気持ちのいい緊張感を、インターネットの配信サービスで味わうことは難しい。

レンタルビデオも配信サービスも、無数の中から一留を選ぶという点で似ていると思うかもしれない。しかしネットの手軽さは、レンタルビデオ屋のような「自分で選ぶ」という特別な意思を奪ってしまった。画面上にアップされるおすすめコンテンツによって、自分の意志で選んでいるようで実のところは既に分析されているの中から選んでいるのにすぎないのだ。

レンタルビデオ屋や大型図書館が持つ圧倒的な情報量。そのパワーに翻弄される喜びを知らないことは不幸なことだと思う。自分の立っている場所から世界の広がりを感じ、その広がりの中から選んできた一つ一つが、私という人間を作ってきたのだ。

小さな私がレンタルビデオ屋で感じていた胸のときめきや、緊張に代わる特別な場所が、今の子供たちにもあると良い。自分で決めることの大切さを知ることが出来れば、それが生きる力にもなるだろう。

おもちゃ屋さんで、ゲーム屋さんで、本屋さんで、ご飯屋さんで、ただひとつ自分のための物を選び、繰り返ししていくうちに大人になる。今の子供たちは、どんな場所が好きなんだろう。

ディオの生活の姿を描き絵筆を執り続けて来たことが、野口画伯にとっては最高の幸せであり居場所であったろうと思えるのである。現在では大川市のご自宅アトリエで毎日絵筆を持ちペルーに思いを馳せ、観る人が癒しになる様な可愛い優しいインディオの子供達の姿を描き続けている。このことが自分の最高の幸せ、居場所のなっているようである。



ですが、この絵は日本でも何度も展覧会で披露されました。私は10代最後の頃に展覧会で購入したこの絵の特ダポスターから、この作品に秘められたある種の諦めや、冷笑的な美人の女性に魅せられたのかもしれない。

現実はそのほど理想的なものではありません。けれども特に私にとっては幼少期から10代にかけて、美しい記憶として様々なことが脳裏に刻まれる時期であり忘れられない記憶のひとつです。その時期に、良作の絵本や絵画、音楽や演劇など芸術作品に触れることは、やがて大きな力を汲み取る源泉になると、60代も末に近づいた私が実体験から断言できることでもあります。

## 居場所ってなあに

西館 好子

健全な青少年が何の前触れもなく突然として不良化、恐ろしいことに殺人までの凶悪犯罪を起すなどあり得ないと思っていた、今までは。

なのに、親を殺したり、縁もゆかりもない人でも誰でもいいからという理由(そんな理由はないのだが)で刺したり、刑務所に入りたかった・死にたかったからなど他人を巻き添えにした上の犯行には唖然呆然とするばかり、あつてはならないことが日常茶飯事に連続して起こるようになってきた。

未来がある若者たちに連鎖のように起こる事件は、その都度「ひきこもり」「鬱」「精神的疾患」「居場所」など、まるで特殊、特権のように取りざたされるのが時流ということか、今では不登校やいじめ、退職や事故などをきっかけとしてストレスから人間関係が希薄になり、殻に閉じこもる状態の「ひきこもり」も自分が生きているという実感がなくとする「居場所」も、もはや社会問題になるほど身近になってきた。

「居場所」などという言葉が意味ありげに、出始めたのはここ数年の事だろうか。

住所や旅先での居場所の事ではない。自分の生きていく「存在」場所が見つからない。だから生きていてもしょうがない、ということか。

孤独孤立で過ごすうちに、心のゆとりや生き

がいが見いだせず追いつめられドツポにはまる。その先に、突発的な行動に走ったり、自殺まで考えるようになる。こうなると他を思う気持ちの余裕などできようがない。多分当人は心の闇の中で病んでしまったに違いない。そんな人が増えてきた。コロナ以来さらに顕著になってきた。誰もが命の危機に直面し、普段はあまり考えることもなかった「命」への思いと、他者とのつながりのなさに直面したら、予測できない明日に絶望したり生きている意味のむなしさを感じるのは必然かもしれないが。

しかし、誰が考えたってそれはあくまでも自分の人生の事なのだから当人が考えることが当たり前前と思わないではない。居場所という言葉に市民権を与え、対処に苦慮する昨今の社会の風潮にあたしはあまり賛成ではない。

一人で生まれてきたわけではない。親がいて家族の中の一員として生まれてきた以上、確たる居場所はその家庭が「確たる居場所」の基本である。わかりやすく言えば人間の居場所は「家庭」という社会の一番小さな単位の中にあるということになる。

そこに生活の秩序や、衣食住のすべて、苦楽や社会への目を向ける訓練がなされなければ、孤独や孤立感は肥大していくに決まっている。人は家庭に生まれ、家庭に育ち、家庭に終わるといのが自然なのではないだろうか。

要は何故理不尽なことをやってのけるかと言えば、「家庭」が無くなってきたからに違いないと、私なら結論付けてしまう。

るからだそうだ。幸せと感じる時間の記憶が宝物になるからだろう。

「家に居場所がなかった」と非行に走る子の共通の思いがあるところを見るとよほどつまらない家庭に育ったのだろう。笑いや会話のない家庭、遊びもゆとりもない家族であれば心を閉ざしてしまうのは当然の成り行きだと目に見える。

むろん人間は家族だけでは生きられない。地域や他との付き合いで社会になじんでいくことも家族の縁線上になくてはならない。むろん、愛情という潤滑油があればの話だが。

ここで改めて母親の役目の大きさを再認識したい。母親から大きさや笑顔が失われた家は舵のない船とおなじだ。

どこを航海するのか、どこにたどり着くか、乗り合わせた家族は右往左往、ついに難破家族は大海に放り出され支離滅裂となってしまう。

母はスカートをはいた政治家、家の支柱、家族の総統力の要、母港であるべきだ。

家庭はイコール母と同意語と結論付けたいと私は思う。

悲しい非行は母親の責任と言ったら怒られるだろうが、近代社会の価値観、道徳観、は日頃の勤労勤勉から培われたものであり、なんといつても母親の意志の力や体力は馬鹿にはできない。居場所をなくしたら、母の懐にお戻りなさいと力強く言える女性のいる日本であってほしいと願うばかりであるのだが。

敗戦後の日本は本当に貧しかった。それから今に至るまで、その出発は生きるために最低必要を得るための働きに終始したはずだ。それがいつの間にか変化した。

高度成長という魔術は経済大国を産んだが、欲望を作り、欲望に輪をかけ、限りない欲望の増大と次なる満足を目指すことしかしてはいない。たにすぎない。

多分これからは飢えない限り愚かな私たちが、進歩や発展という甘い汁と、それを得るための経済優先という手段から逃れることはできないのではないだろうか。

金が金を産む時代、浪費の弊害は資源の枯渇と人の心の荒廃を産み、次世紀の人間への優しさを喪失させる。最も怖いのは誰もが持つ家庭というものに和と愛を育てる土壌を無くなってしまったことだ。働いて得た豊かさが、優しさを失わせてしまったことにまだ気が付いていない。

家庭はすでに「死語」かもしれない。

しかし家庭とはいったい何だろう？

私の若いころは先祖の祭祀は家庭の行事であった。朝は仏様の鐘の音から始まった。



ただ過去が大事だというのではなく、家族の一人一人に沢山の縁者がいてお前が生まれたのだよ、という言葉の子供の頃に聞いて緊張した覚えがある。両親、祖父母、曾祖父母、などさかのぼっていくと三十代では私には十億七千三百七十四万八千八百二十二人の共血につながるそうだ。まさに細胞分裂だ。墓参りをしなくてもそんな流れの中に自分の存在があるという話ができるのは家族しかない。それぞれの死の先に自分がある。盆や正月に集まる場と家族の和がある限り命は自分一人のものではない、自分の命はけっして粗末にはいけないと確信した。その根が家庭にある限り人はそんな悪事を思いつくものではない。

「衣食住」すべてに人の知恵や思いやりが入っている。衣は石油や科学物質、命の食は添加物に汚染され、住は簡易な輸入材の汚染に侵され、では「命」の居場所など臨むべきもない。この先こんな長寿はあり得ないだろう。

とりわけ「食」の安全性は重要で、肉や油の食生活は獣のように凶暴性を帯びるといふ専門家の論を私は信じている。

土と水と太陽に恵まれた国の自給力を侮れば国は滅びるといふことも確かだ。ものに榮え、心に滅びる時代早く終止符を打ちたい。

人生は誰もが思い通りにならないことばかり、しかし、家族の和の中で育ったら安心して自分を表現できる子供にはなるだろう。

幼児期に幸せを味わった人には不幸せな時期が来ても跳ね返すバネがあるとわいている。体験や信頼度という見本が体に力をあたえてくれ

絵はがきが届きました



田島葉子  
群馬県 田島タイヤの専務  
いつも日本子守唄協会に季節の絵手紙を送ってくださいます。



# かるた 兎角子共達続

わらべうた童謡 詞華抄11

わらべうたの研究者 尾原昭夫

## かるた関連の伝統文化を追って

兎角子共達ハ莊氣ナガ能物、アイヤノボロく、(中略)  
正月ガラジャレバ  
玉打ツ羽ツカウ、カルタ将棊双六、  
重カ半モヨイ物、(略)

〔鷺流狂言伝書〕享保九年(一七二四)以前、鷺伝右衛門保教写

第8回以来続けている狂言歌謡「兎角子共達」から、今回は「かるた」を取り挙げる。「かるた」に関連する伝統文化を、なるべく歴史的流れに沿って、時系列で追ってみよう。

かるたといえば、「犬も歩けば棒にあたる」といったハいろは順を基調とする「いろはかるた」を思い浮かべると思うが、その基礎となっているのは、もちろん「いろは歌」である。

## いろは歌

色は匂へど散りぬるを 我が世誰ぞ常ならむ  
有為の奥山今日越えて 浅き夢見じ酔ひもせず

七五調・四句のハ今様形式は「今様歌」の基本形である。「梁塵秘抄」で知られるように、今様歌は平安中期から鎌倉初期にかけて流行、その旋律の一つが雅楽「越天楽」から生まれたハ越天楽今



歌かるた  
鈴木春信画 青楼美人合 1770



貝合せ  
鈴木春信画 青楼美人合 1770

様で、慈鎮和尚の作「春の弥生」は今もよくうたわれ、信時潔も「いろはうた」の合唱曲を作った。その基本形の枠のなかに、きちんと当時の仮名を一字も洩れなく、ダブらずはめ込み、しかもその心とするところは「諸行無常」。かの「平家物語」冒頭の名句「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり」で知られる仏教の根本理念で貫かれていて、あまりにもみごとな作品ゆえに、これを弘法大師の作とも考えられていたが、今は作者不明とされている。

## 花合せと貝合せ(貝覆い)

平安中期、永承五年(一〇五〇)に、御所の麗景殿で、女御と女房たちの間に花の絵合わせが行われ、また、堀河天皇の寛治年間(一〇八七〜九四)には、自然の花を愛でつつ花の歌合わせが行われた。やがて平安末期に至ると、その花の絵や歌を競う遊びが、蛤の貝を用いる貝合せに発展していく。



貝合せ(部分)  
令泉家王朝のみやび 朝日新聞社より

貝覆い  
西川祐信画 絵本十寸鏡 1748



蛤などの二枚貝は、対となる貝としか組み合わない。そこで対の貝の両内面に歌の上の句、下の句を、または同種の花の絵を描き、地貝と出し貝に分ける。まず地貝をすべて伏せて並べ、出し貝は貝桶に収める。出し貝を順に一個ずつ出しては、これと合う地貝を選び取るとき、多く取った者が勝ちとなる。

この伝統がのちにハ歌かるたハ百人一首ハ花札につなげていく。ちなみに、この貝合せを夫婦和合の象徴とし、公家や大名家では貝・貝桶を豪華な嫁入り道具に用い大切に扱った。

## 天正かるた・ウンスンカルタ



正月のかるた  
画者不詳 天和長久四季遊 1681~84



かるた 婦女遊楽図(部分)  
近世風俗図誌7 小学館より

江戸時代後期の文化（一八〇四）の頃には、「犬も歩けば棒にあたる」のようなへことわざをいろは順に仕組んだ「いろはかるた」が流行。それも京坂と江戸、東西で内容に違いがあった。かるたを取る遊びのうちに自然に、人生の教訓や世渡りの術を学ばせる、江戸時代の人々の深い知恵と工夫を読み取ることができる。



いろは双六(部分)  
一鵬斎藤画 別冊太陽 いろはかるた 平凡社より

いろはかるた

余談ながら「ウンともスンともいわぬ」の語源は、ウンスンカルタにあるといわれ、ウンはポルトガル語の um で、スンは sum で最高の意味。さらに、「ピンからキリまで」も、ポルトガル語の pinta (一) と crus (クロス・十字架) で、ピン(一)とキリ(一〇)の意味から転訛したものである。

室町時代後期、元亀二年（一五七二）九州大村領にポルトガル船が来航、かるた Caria が伝来した。それを模して三池（現福岡県大牟田市）で作られたのが「天正かるた」で、のちに京都でも作られた。コップ copo、金貨 ouro、棍棒 bastiao、剣 espada の 4 種、1 (pinta) から 9 までが点札、僧侶 (sofa: 10)、騎士 (11)、武将 (cruz: 12) が絵札で計 48 枚。ただし、多く賭博に使用され、慶長二年（一五九七）に禁令が出ると、ウンスンカルタなど変種も考案されたが、寛政の改革により衰微。江戸後期の文化年間（一八〇四〜一八一八）頃からは、和歌から庶民的な諺に変えた「いろはかるた」、また「花札（花がるた）」などの流行へ移っていく。

歌留多造師  
彩画職人部類 1774



ウンスンカルタ(部分)  
別冊太陽 いろはかるた 平凡社より



### 小倉百人一首



光琳かるた  
別冊太陽 百人一首 平凡社より

春過ぎて夏きにけらし  
白妙の衣ほすてふ  
天のかぐ山  
菱川師宣画 姿絵百人一首 1695

鎌倉時代中期に、藤原定家が京都小倉山の山荘で撰したと伝えられる「小倉百人一首」は、手習いや絵本などで多くの人々に愛されてきた。前述の歌員が、渡来のカルタに似せて江戸初期に貝から紙に素材を変えへ歌かるたが成立する。初期はいろいろな和歌が使われるうち、やがて小倉百人一首がその代表的存在となった。



かるた遊び  
西川祐信画 絵本池の蛙 1768



百人一首  
奥村政信画 絵本小倉錦 江戸中期

(東)

犬も歩けば棒に当たる  
論より証拠  
花より団子  
憎まれ子世にはばかる  
骨折り損のくたびれ儲け

(西)

一寸先 闇  
論語読み論語知らず  
針の穴から天覗く  
二階から目薬  
仏の顔も三度

### 花がるた(花札)

「花がるた(花札)」は、貝合せの文字を絵で表した花鳥合せを、江戸後期の文政(一八一八)頃、ウンスンカルタの方法に合わせて創案、花鳥風月を四季四種、十二月十二枚、計四十八枚に描いて一組とした。

### 【かるた関係参考書】

- 別冊太陽 百人一首 平凡社 1972.12
- 別冊太陽 いろはかるた 平凡社 1974.11
- 昔いろはかるた全 森田誠吾 求龍堂 1970.11
- いろはかるた物語 池田弥三郎 榎谷昭彦 角川書店 1963.12
- 江戸めぐり加留多資料集(限定版) 近世風俗研究会 1975.8
- 図録 王朝のあそび 朝日新聞社 1988.1
- 図録 冷泉家の至宝展 NHK・NHKプロモーション 1997
- 近世風俗図譜2 遊楽 小学館 1983.12
- 近世風俗図譜6 遊里 小学館 1982.10
- 近世風俗図譜7 遊女 小学館 1984.4
- 近世風俗図譜12 職人 小学館 1983.8
- 日本を知る事典 社会思想社 1971.10
- 江戸の舶来風俗誌 小野武雄 展望社 1975.10
- 日本風俗図絵2 姿絵百人一首 柏書房 1983.7

# 児童福祉生活50年

子どもの虹情報研修センター 川崎 二三彦

## 万引き少年

個人的なことで恐縮だが、本年3月末で、私は、10年間務めた子どもの虹情報研修センターのセンター長を退任し、4月からは、センター顧問として引き続き業務に関わっている。振り返ると、大学を卒業して32年間を児童相談所で勤務し、その後の18年間は、児童虐待問題等に取り組む子どもの虹情報研修センターに身を置いた。ということとは、ちょうど50年、半世紀を児童福祉の現場で働いてきたことになる。



では、なぜこんな人生を歩むことになったのか。その第一歩は、おそらく小学5、6年生の頃、万引き少

年だったことが影響しているだろう。田舎で育った私はイタズラ盛りで、学校の行き帰り、よそ様が育てた畑の芋を掘ったり葡萄の房をちぎって食べたりしていたのだが、それが高じて、しまいには近くの店のお菓子や文具を盗むようになってしまった。ある時それが発覚し、他の仲間と共に校長室に呼び出され、こっぴどく叱られる。我に返ると、一体自分は どうしてこんなことをしてしまったのかと悩み、それが思春期の大きな問題となった。

## 大学紛争

「万引きした理由を知るには、心理学の知識が必要だ」

そう考えて京都大学文学部に入学したところまでは良かったのだけれど、時は折しも70年安保闘争のさなか、大学紛争の火が燃えさかっ

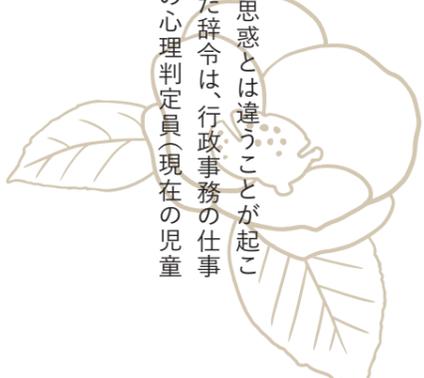
ていた。文学部の学生自治会は、赤軍派などの過激派グループが執行部を固めており、学部長室は彼らに占拠され、長期ストライキが続いていた。そして、京大の学生を含む日本赤軍の幹部3人が、テルアビブ空港で無差別に銃を乱射し、20人以上が死亡する事件が発生すると、自治会執行部はピラや立て看板で公然と事件を支持し、大宣伝したのであった。私は到底許される事件ではないと考え、学生大会で発言を求め、抗議した。と、その瞬間、ヤジと怒号とピラを丸めた紙つぶてが一斉に襲いかかり、私は壇上で立ち往生してしまった。



こうして大学紛争に巻き込まれ、ふと気づいたのは、社会にはさまざまな問題が渦巻いているのに、自身の万引き問題に拘泥している場合ではないということであった。そのため、大学を卒業する頃には、心理学への関心は薄れてしまい、就職先も住民に奉仕する公務員を考え、一般行政職の試験を受けて無事合格、晴れて京都府の職員になったのであった。

## 児童相談所への道

ところが、出だして思惑とは違うことが起こる。新採の私に出された辞令は、行政事務の仕事ではなく児童相談所の心理判定員(現在の児童



## 子どもの虹で

このような日々が続いているなか、子どもの虹情報研修センターから突然連絡があり、研究部長として来てほしいという。当時のセンター長は国際小児科学会の会長も歴任された小林登先生。赴任して、小林先生の薫陶を受けながら研究や研修等に携わることができたのは、まさに得がたい経験だった。先生は、人間に対する深い理解と洞察をふまえ、子ども虐待を予防するには生活の場をやさしくする必要があり、子守唄が町に流れるようにするのも一つの方法だと常々話されており、私もいつのまにか本協会との縁ができたのであった。先生は逝去されたが、忘れられない思い出である。

さて、小林登先生のためのセンター長は、同じ小児科医の小林美智子先生。子ども虐待を防止することに生涯をかけて取り組む希有なリーダーだった。児童福祉に関する私の後半生は、二人の小林先生の導きがあったからこそ続けられたと言わざるを得ない。そんなことを考えながら歩んできた50年を振り返り、私は今、虐待防止のためにもう少し力を尽くしたいと、決意しているところである。



小林 登 先生  
(東京大学名誉教授、  
国立小児病院名誉院長)

今回のイラストは、AIを用いて作成しました。

心理司)だった。予定外で気が進まないまま赴任したのだが、1年、2年と経つうち、なぜかこの仕事に魅せられてしまう。自分では到底体験できないような人生を歩んできた人たちと日々出会い、話に耳を傾けると、興味は尽きないのである。

瓢箪から駒かもしれないが、自身の恥ずかしい体験が、児童相談所の業務に役立った。というのも、私の万引きは、客観的に見れば児童相談所に通告もされない軽微な事案だったので、その体験が回り回って私を児童相談所の職員へと導いたのである。それを思うと、児童虐待を受けている子どもたちは、私より何倍、何十倍も過酷な体験をしており、彼らの人生に甚大な影響を与えずにはおれないということが、容易に想像できたからである。もう一つは、大学紛争を経ることで万引き問題を引き起こすことがなかったこと。自分の問題を解決できないままでは、他人の相談にきちんと向き合うことは難しいのである。

## さまざまな相談

さて、いざ児童相談所で働いてみると、先に述べたとおり、さまざまなことを体験した。障害のある幼児の発達保障のため、毎週毎週母子で通ってもらった時には、母親たちの日々の努力を知って頭の下がる思いがした。非行問題では、児童福祉司の辞令をもらって赴任したその日、「今日も校内で暴れ回っている。児童相談所は何をしてい



# 「親になるあなたへ」

山折 哲雄

このところ事件や犯罪が多発し、ニセ情報や詐欺まがいの勧誘がふえて、この世に不安が広がってきました。いきおい、

人を信用するな  
他人にだまされるな

の声があがるようになりました。親たちからも教師たち、世の中の識者たちからも。

ジレンマです。つらいジレンマです。

けれども思い出してほしいのです。昔の村の子どもたちは見知らぬ子どもたちが村にやってくると一種の挨拶がわりにやっていたことがあります。それが、

睨む 睨みつける

端然と睨む。威厳のある態度で相手の目を見すえる。この睨む精神が今日の大人からも子どもからも失われてしまつて久しいのです。

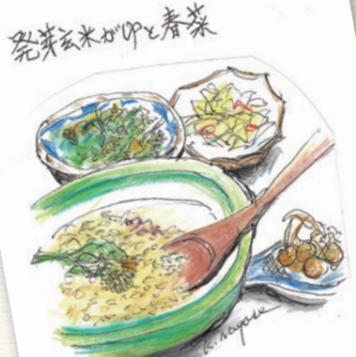
かつてわれわれの地域の国境には関所のようなところがありました。そこはしばしば、前近代のチェックポイントとされ、マイナスの烙印を押されてきましたが、他方そこは浮世からは遠く離れた桃源境。そして子どもたちの夢の世界へと誘う魅惑の入口でもありました。

山姥や金太郎、一寸法師や瓜子姫たちが登場してきて、世にも不思議なお伽話の舞台にふれだしてくれたもので。その入口の関門で今日、睨みをきかせてくれる親たちはいったどこにいますのでしょうか睨みの日本人よ。あらわれよ。

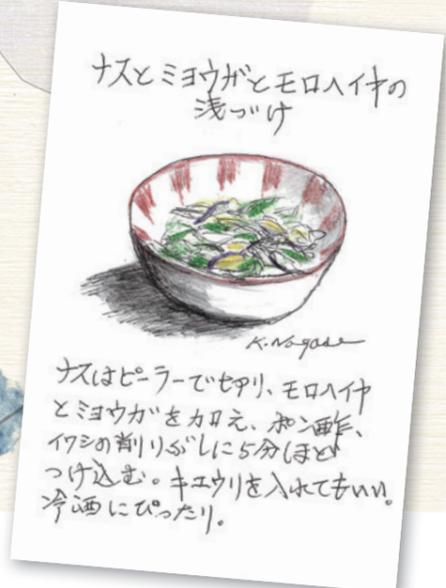


# 83歳 永瀬嘉平の 男のひやし料理

128



茶葉玄米がゆと春菜  
茶葉玄米を炊いて、茶の花の塩かけ、のびのびのミソかけ、キハハツとタマネギのオリゴかけ、のびのびは、おついでした玄米と春の野菜がトツヒョウ。



## 永瀬嘉平さんプロフィール

東京都目黒生まれ。84歳。大手新聞社で記者～編集次長となり、定年1年前に退職して飛行機を使わない世界一周の旅に出る。あらゆるものに興味を持つ好奇心旺盛な性格で、その中のひとつが自然。「ナチュラルリスト」として数々の紀行集や写真集を手掛け、都市圏のカルチャースクールなどで講師を務める。著作に「日本の滝 躍動する水的美と名瀑への招待 (講談社カルチャーブックス)」、「百木巡礼: 巨樹に魅せられて (フォト・マンダラ)」など。



母の代わりに、ヤミ米買いに、暗い部屋の中で老若男女米を、柳が持ってきた布袋の中にサトウと入小まに、糊つきと火を炊く。(1960年27.8年ころ)

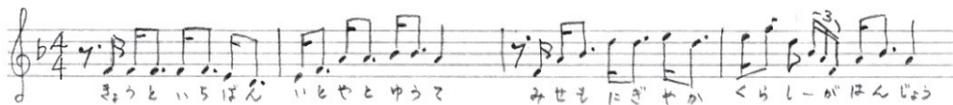


# 第13回 「長念仏の由来—清左お吉の歌昔」 (山形県新庄市)



今年(二〇二五年)三月七八日、山形県最上町の瀬見温泉の老舗旅館「ほてい屋」に一泊し、窓の外に雪景色を眺めながら、新庄市在住の語り手・渡部豊子さん(一九四二〜)から、二日がかりでいくつもの昔話や物語唄や子守唄・わらべうたを聴かせていただいた。

中でも強く印象に残ったのが、「長念仏」と呼ばれる「歌昔」(物語唄)で、京都の本店、糸屋の一人娘お吉と、大阪の本店の一人息子で糸屋に修行奉公に来ていた清左が、悲恋の末に哀れな死を迎える顛末を歌ったものだった。この唄は、京都東本願寺の末寺にあたる貧乏寺の和尚が、お吉と清左の供養として作ったもので、全国に広まって、山形の新庄や最上では今でも「長念仏」として伝承されているという。「長念仏」とは「亡くなってから七日間だけ申す念仏の一つで、死人の霊がなかなか家の周りに離れがたく、あの世に行けないでいるのを、長念仏を申して、あの世(極楽浄土)に送ってやるのだ」という(渡部さんのメモより)。つまりこの唄は、この世からあの世へ移ろうとする魂に歌いかける「弔い唄」であり、あの世からこの世へ移ったばかりの魂に歌いかける「子守唄」と同じく、魂の「守り唄」とも言えるものである。



京都一番 糸屋と言うて  
店も賑やか 暮らしが繁盛  
出店出したは 三十五軒  
倉の数々 二十四、五もあれば  
手代番頭は 三十五人

手代頭の 清左と言うて  
器量の良いこと 千人優れ  
読み字書く字は 万人優れ  
一人娘のお吉と言うて  
器量の良いこと 千人優れ  
読み字書く字は 万人優れ

そこで二人は 仲良くなりて  
一度二度なら 誰にも知れず  
三度四度と 数重なれば  
親の耳にも そろそろ入り

そこで親たちや ご相談なさる  
清左呼ぼうか お吉を呼ぼうか  
人の子よりは 我が子を先に  
お吉お吉と お呼びなさる

親の前なら 両手をつけて  
前の唐紙さらりと開けて  
何か母様 何用がござる

何か父様 何用がござる  
店の清左と 訳あるそうだと  
何か母様 何言うてござる  
夢かうつつかうつつか夢か  
それが嘘なら 清左を呼べよ

清左、清左とお呼びなさる  
うちの娘と 訳あるそうだと  
清左もとより 内気な人で  
なにを言うても だはいはいと  
下に下がって お仕度なさる

今の流行の 琥珀の帯を  
右に回して かの字に結び  
笠を手に持ちさらばと言うて  
店に曲がって 長々お世話  
ご縁があったら また来てお世話  
縁がなければ もうこれぎりよ  
生木小枝の 割かれる如く  
清左お吉の 別れるつらさ

お吉お吉と 小窓の下に  
今度清左の 知らせが来たぞ  
京の暗闇 我が身を捨てて

一里歩けばもう屋近く  
二里歩けば夕方近く  
白木造りの御門の前で  
はいつと今晩はとうち唄せよ  
はい、と、女中さん出て来てござる  
あなたどちらかどちらの方が  
あなたに申すは 恥ずかしけれど  
京都一番 糸屋の娘  
お吉さんとはあなたのことか  
うちの清左が 長々お世話  
うちの清左は 病にかかり  
医者も殿舎の 御殿医者までも  
かけて見たとて 治らぬ病  
今日は清左の 七日でござる

清左墓所は どちらでござる  
杉が三本 小杉の下で  
清左墓所は 新し塔婆  
草を結んで 数珠と名付け  
挿したかんざし 線香と名付け  
挿した櫛をば 塔婆と名付け  
清左出てあえ 出てあえ清左  
清左塔婆が 二つに割れて  
お吉よく来た よく来てくれた  
お前一人は この世にやおけぬ  
大石小石を 袂に入れて  
前のお堀に 我が身を捨てて  
北に向かつて 南無阿弥陀仏



渡部さんはこの「長念仏」を山形県最上郡真室川町の土田賢さん(一九二四〜二〇〇三)から一九九三年頃に初めて聴いた。賢さんは小学六年生を終えた頃、自宅から約四キロのところにある、叔父が住職を務める正源寺で暮らしていたが、そこにお参りによく来ていたおばあさんが住職に歌ってきかせていたこの唄を聴いて覚えたのだという。

初めて賢さんから聴いた時、渡部さんは「私の体の何かが痺れるというか背中がゾクゾクとしたし、終わってもしばらく言葉がでなかった」(渡部さんのメモより)。そして「次の日から、職場への行き帰



り車でテープ回しっぱなし三か月。ようやく覚えると賢さんの前に正座させてもらった。『あねこ、良く覚えだなあ。免許皆伝だな。良かった、良かった。いづ語っても良え。』と、言ってくれた。それはそれは嬉しかった。賢さんは亡くなり滅多に歌うことはないが、『歌昔』をやるたび私の中に賢さんが生きている」。

二〇二五年三月の「ほてい屋」で、渡部さんはこの「長念仏」を、歌詞カードも見ることなく、よどみなく、しみじみと歌い終えた。手元のボイスレコーダーで確認すると七分五〇秒、実に見事な詠唱だった。土田賢さんの(いのち)が渡部豊子さんの身体に息づいているのが目撃できた。今回の採訪を企画・同行して下さった加藤恵子さん、島津信子さんにも感謝いたします。

(\*参考文献：渡部豊子『昔話と村の暮らし—山形県最上郡旧萩野村—』私家版二〇〇五年、杉浦邦子『土田賢唄の昔語り 口から耳へ 耳から口へ』岩田書院二〇〇五年。)

連載

帯津良一

# これぞ！生きる事なり



先日、中部地方日本海側の富山県の県庁所在地である富山市を訪れました。ここに本拠地の一つを持つ大手の会社から講演を依頼されたのです。新幹線の「かがやき」なる列車が富山市内に入るや否や気が付いたのです。この地を訪れるのは初めてであることに。

それと同時に、この街の情景が、地方都市とはとても思えない、きわめて洗練されたものに見えるのでした。何方かが

**富山市は刺身が旨い！**

と言っていたのを想い出すと同時に、主催者さんが提案されている本日の演題

**「生きる事とは」**

が閃いたのです。

いやあ、好い演題だと思いました。しかしこの時点では講演の内容まではまだ考えてはいません。好い演題だから、ねたはいくらでも有る。60分や90分なら壇上での思いつきでもいくらでも喋れると、塚原ト伝の無手勝流を決め込んでいたのです。実際に旨くいったと思っています。内容はほとんど覚えてはいないのに、話が佳境

に入ったときの内なる生命場のエネルギーの上昇は身体が覚えているのです。

いつもの伝で、講演の内容を想い出すことは至難の技ですが、あらためて

**「生きる事とは」**

について考えてみました。真っ先に解答が閃きました。生きる事とは

その時の最大関心事に身心を傾倒させ、生きながらにして虚空と一体となることである。

としました。具体的にはこちらの生活の局面に応じて、生きる事の内容も異なって来ます。たとえば、東京都のがんセンターとしてスタートしたばかりの都立駒込病院で明け暮れ食道がんの手術に精を出している時代は何と言っても手術日です。

朝の9時に執刀。自分で言うのもおかしいが、念入りな手術をして、午後3時に終了。麻酔を醒ましてから集中治療室へ。ここで4日間滞在して、合併症の無いのを見定めてから一般病棟へというのがルーチンです。集中治療室の看護師さんはつわもの揃い。患者さんの状態が落ち着

くと、日勤の終えた看護師さんを一人二人連れて街中にアルコール付きの軽い夕食。

というのは私の自宅は川越市なので、帰宅してしまうと患者さんに不測の事態が生じて、終電の後ではどうにもならない。そこで手術日は必ず集中治療室の当直室に泊ることにしていたのです。軽い疲労感と達成感の入り交じった軽い夕食はなかなか乙なもの、集中治療室の患者さんが落ち着いているのを見届けると、医局で一休みしてから集中治療室の当直室へ、というのが手術日の一日です。翌日は早朝に起きて14階の医局へ。窓から明け初めつつある東京の下町を一望するのも、これまた乙なもの、かくして手術日の丸一日が、生きる事そのものになるわけです。

手術といえば、当時、食道がんの手術の名人として、その名を轟かしている方が一人おりました。東大第二外科のA先生です。私の大学の6年先輩です。それほど親しいわけではありませんが、学会や研究会でよくお会いするので、その風貌は存じ上げていました。

当時、市中病院の外科部長として転出していた彼の手術を見学しようと、その病院の手術室に全国の外科医が殺到したことがありました。手術室ですから一度にはそう何人も入れるものではありません。そのきわめて高い競争率が評判になったものです。そんな時、集中治療室のスタッフの一人が私に話しかけて来たのです。「先生の手術も見学したい人が押し寄せて来ていますか？」

**「いえ、そんなことはありません。今だかつて見学の人も二人もありません」**

**「えっ！ そうなんですか。なぜでしょうね？ ……でも先生！ がっかりすることはありませんよ！ ……先生が食道がんの手術の名手であることは私たち誰もが知っていることなのですから……」**

なんともほのぼのとした気持ちになったものです。これも「生きる事とは」の立派な返答ですね。

また、入院患者さんは手術を受ける人ばかりではありません。病気が進行しすぎて治療法に迷っている患者さんいれば、再発のために何らかの治療を受けている人もいます。なかなか一筋縄ではいかない患者さんも少なくないのです。そのような患者さんが一旦良くなって退院に漕ぎ着けると、それはうれしいものです。何方かにお礼を言いたくなるものです。

そこで私は時間に余裕のある午後とか夕方を選んで、柴又の帝釈天にお礼参りに行くことにしたのです。お賽銭を上げて祈ったあとと門前の割烹料理屋さんでお清め一杯。これがまた

軽い疲労感と達成感が入り交じって、生きていくありがたさが味わえるのです。誰にも言わず一人でそっと出かけていたのですが、これがまた集中治療室の猛者さんたちの知るところになったのです。その後は何方かが必ず同行します。多い時は10人を越えることもありました。この料理店がなかなか粋なお店で、一人も好し、大勢も亦好しということで楽しんでました。

川越市に病院を開いたのが1982年の11月。その後も柴又行きを続けたのですが、何分、駒込病院と違って遠距離です。午後からそっとというわけにはいきません。そこで一計をめぐらせました。年に一回、12月31日の大晦日に伺うことにしました。牽引車役は病院の初代総師長のYさんです。彼女はもとも駒込病院の猛者さんの一人であったのを私が引き抜いて来たのですから、この辺の事情には通じています。これにその都度、彼女の友人と私の友人が加わって総勢7〜8人。

午前10時に帝釈天の前庭に集合。全員が本堂に上がって護摩を焚いていただき、頂いたお札を片手に車組と電車組に分かれて浅草の門前の近くの鰻屋さんDに移動します。車はY総師長の運転によるものでしたが、彼女が幽明界を異にしてからはもっぱらタクシーです。

そして、Dさんの2階の大広間で懇親の昼食会です。この寄せ鍋がじつに旨いのです。出し汁の味は天下一品です。だからもう長いこと、この日程に変わりはありません。メンバーの誰もが、この会を好きで好きでたまらないように

す。年に一回ですが、まさに生きる事の一翼を担っているようです。

また、これからお話しするのは私がホリスティック医学を目指して何年もしてからの話ですが、その遠因は私が外科医時代に溯りますので、ここで紹介させていただきます。ホリスティック医学の道を歩むようになって講演はとみに増えて来ました。

四ツ谷駅近くのキリスト教関係の講演会での話です。壇上で話し始めて、すぐに気が付きました。私の目線と同じ高さの処に、なんと食道がん手術の名手のA先生がいらっしゃるではありませんか。はて？ 何だろうと訝しみながら話を終えて講師室に戻りかけたところ、A先生が奥さんらしき人と追いかけて来て、「**帯津先生！ あなたはすばらしい。立派です！ ……**」と来たものです。これぞ生きる事なり。



## 帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開設。  
日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか？」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

# 4度目の「瀬戸内国際芸術祭」体験



南無庵 庵主 山根 光恵  
山口県長門市出身  
浄土真宗本願寺派 布教使

私が直島に移住してきたのは、平成28年、西暦でいうと2016年のことで、もう9年が経った。

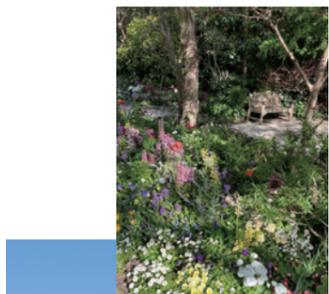
今年4月から、瀬戸内の島々では現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」が行なわれている。この芸術祭は、3年に一度行われる。私が移住してきた年は、ちょうど2度目の芸術祭が行われた年であった。

引越してきた2月、3月は荷物の片づけに忙しく、外で何が行われているのか、まったくと聞いていほど関心がなかった。

4月になると余裕もできて、庭に花を植えたりし始めたころ、たまたま通り掛かった若い人に声をかけられた。彼らは、ベネッセコーポレーションが直島で運営するホテルに勤める新入社員だということ。聞けば、翌日が入社式とのこと。その後、彼らとともに親しくなり、今でもつきあいが続いている。彼らは入社してすぐに、芸術祭の仕事でもとても忙しそうにしていた。それから3年ごとに芸術祭が訪れるたび、忙しいと言っていた。前回の芸術祭のときはコロナ禍だったため、例年のような忙しさはなかったものの、それはそれでとても大変だった。

私一人暮らしの気安さで、彼らが時々遊びに来てくれるのが楽しみであった。一緒にお茶を飲んだり、ご飯を食べたりして、人の輪も広がっていった。そして、島の中にあるアートの良さも少しずつ分かるようになったし、こんな素晴らしいものに囲まれている自分のことを、幸せだな、と感謝できるようになった。四季を問わずこの島を訪れる外国人が、一体何に魅力を感じて来るのかということも、なんとなく分かるような気がしてきた。

せっかく遠い国まで来た来訪者たちが、不快な思いをして帰ることがないように、私も島の人間として、何かできることをさせてもらおうという思いがしてきた。そこで、島をきれいにしようという思いから、お地藏さんのお世話を皆でするようになった。涎掛けを縫ってくれる人、その涎掛けをかけるためにお掃除してくれる人など皆さんに協力してもらってもう十年になる。赤いきれいな涎掛けをしたお地藏さんに迎えられると、来訪者の皆さんも楽しいかな? などと思う。



モネの庭



こいのぼり

先日、NHKの「新プロジェクトX」挑戦者たち」というテレビ番組で、直島がアートの島になるまで特集していた。

何の変哲もない島であった直島が、アートの島として世界中に知られるようになったのはなぜかというのを掘り下げた内容だ。

直島は昔から、金や銅を製錬する会社がある工業の島で、公害によって「禿山の島」といわれていた。また、隣にある豊島という島は、産業廃棄物の不法投棄によってすっかり汚染されてしまっていた。この二つの島をもう一度元気にするにはどうしたらいいのか。考えた結果、ベネッセコーポレーションの力を借りて、それも「現代アート」で生き返らせようと取り組んだのだ。結果、企業、島民が皆で知恵をしぼり、力を合わせて取り組んで、直島も豊島も、今日のように世界中から人が来る島になった。

今年の「瀬戸内国際芸術祭」は、なんと百万人のお客さんを予想しているとか。アーティストが作品を作る時は、島民も総出で手伝ったりしている。豊島では、住民皆で柵田の再生を手伝ったりして、その美しい風景も、作品の一部のようになり、訪れた人に感動を与えている。味わい深い作品の数々を、ぜひ皆さんに見てもらいたいと思う。

合掌

## 活動報告

### 4月

6日(土) フジコ・ヘミングさんをのぞいて

(下仁田ねぎぼうず)  
4月21日はフジコ・ヘミングさんの一周忌にあたるため、長年フジコさんを撮り続けていたカメラマンの中島さんにお願ひし、素顔のフジコさんのお話をいただきました。



9日(水)

西館好子理事長、議員会館に小淵優子さん訪問(理事長友人・参議院議員山谷えり子さんと共に)

12日(金)

(下仁田ねぎぼうず)  
盛岡養護施設みちのくみどり学園から藤沢昇会長・赤坂美代子(現園長)・櫻井義久氏が来訪。ねぎぼうず館に保存していた黛子画伯の画「風のプレリユード」をみちのくみどり学園へ贈呈。

16日(水)

(下仁田ねぎぼうず)  
西館好子理事長、新宿にて当協会相談員・米野宗禎僧侶と元チャイルド社社長・浅香俊二氏と相談会

### 5月

3日(土)・4日(日)・5日(月)祝日 子守唄を知ってほし三日間

(下仁田ねぎぼうず)  
お話と演奏は、原莊介(ギターリスト・子守唄研究家)・清水睦夫(ウクレレ協会理事長)・西館好子理事長

10日(土)

「鶴見和子さんの着物の部屋」オープン記念講演会  
(下仁田ねぎぼうず)  
藤原良雄(藤原書店社主)・中谷比佐子(着物研究家)・笠井賢一(演出家)  
(詳しくは「ねぎぼうず新聞14」にて)

17(土)

横浜で三人展が開かれました。  
異国情緒漂う横浜で松永伍一氏を偲んで絵画展が開催されました。

8月30日、ねぎぼうず2F松永伍一子守唄の部屋で詩人たちがあつまって面白い会が開催されます。詩作のお勉強会や演奏もあります。



24日(土)

(下仁田ねぎぼうず)  
歌紀々さん(歌手)・山田幸雄さん(雅流手回しオルゴール)さんのコラボコンサート  
(詳しくは「ねぎぼうず新聞14」にて)

### 6月

1日(土)

(下仁田ねぎぼうず)  
フジコ・ヘミングさんの部屋で高橋操さんのコンサート



29日(木)

(ライオンズクラブ・於ホテルオークラ京都) 西館好子理事長、「心の忘れ物 子守唄について」講演

### 配食 毎月第二・第四木曜日に実施

### 訃報

さようなら藤村志保さん

6月12日(木)藤村志保さんが誤飲性肺炎のため86歳で死去なさいました。私とは40年来の付き合いの大親友でした。子守唄協会もどれほどお世話になったことか、志保さん本当に有難う。骨が本当にもろくなり、晩年は入院を繰り返して、つらい何年間だったと思います。

本当に語りつくせない思い出を頂きました。東日本大震災では湯川れい子さんと一緒に三婆トリオを組んで被災地を回りましたね。帰ってきてしばらくして三人が甲状腺疾患になったこともありました。樹木希林さんと一緒に何度か食事したり、NHKの野村元専務と民放連の中川元会長と血液型からOB会を作り四人で毎月おいしいものを食べに行く会を創ったりもしました。今頃は大好きだった勝新太郎さんや市川雷蔵さん、樹木希林さんと楽しい話をしていてはいないでしょうか。死化粧は見事に美しく「旅立つ日」とご自分でお書きになりご用意なさっていた白の輪子のお着物を召して、本当に旅立ってしまいました。志保さん、また会える日まで。

西館好子

# 応援がしてくださいます

協会の活動にご協力くださいました皆様、ご寄付を有効に使わせて頂きます。これからも日本子守唄協会への応援をよろしくお願い申し上げます。温かなご支援を本当にありがとうございます。

2025年4月1日から2025年6月13日現在 五十首順 匿名希望5名(敬称略)

## 「個人」

- |          |        |         |       |
|----------|--------|---------|-------|
| 青木健次     | 春日宏美   | 清水睦夫    | 長縄千鶴子 |
| 青戸雅之     | 加瀬博道   | 白石源次郎   | 中根宏昭  |
| 青山 司     | 加藤恵子   | 神 秀俊    | 永野一昭  |
| 安倍昭恵     | 神長倉万美子 | 菅原芳徳    | 永見徳代  |
| 阿部輝彦     | 川北恭伸   | 杉野善彦    | 西尾まき  |
| 井坂義雄     | 川下則子   | 杉本太郎一   | 西川敏之  |
| 石川千安希    | 川田利夫   | 須崎晃一    | 西前幸子  |
| 磯部裕子     | 神崎邦子   | 鈴木義広    | 則武清司  |
| 市川富夫・久美恵 | 神戸精一   | 芹澤文子    | 橋本 昌  |
| 市崎美千子    | 菊池博之   | 素野 悟    | 馬場 妙  |
| 伊藤 守     | 菊池弥生   | 田井二郎    | 原 昭邦  |
| 猪塚育代     | 北 美    | 大小原久子   | 原田直之  |
| 今井弘子     | 木下俊明   | 高瀬得尋    | 平野俊興  |
| 今井要一     | 木村泰雄   | 高田昌子    | 平野文興  |
| 今元弘子     | 国見修二   | 高橋ヒロ子   | 廣瀬俊之  |
| 上原孝子     | 久良木恵子  | 高原政子    | 廣畑心香  |
| 上原一美     | 黒澤正明   | 高松榮子    | 福井昌平  |
| 内山章子     | 鴻巣文明   | 竹内景哉    | 福島昭子  |
| 梅田郁子     | 古川洋文   | 竹中裕子    | 福田 孜  |
| 江藤昭子     | 小林ヒデ子  | 田島葉子    | 福永教正  |
| 近江千穂     | 小山啓子   | 田中厚子    | 福永教正  |
| 大河原尚夫    | 近藤芙美子  | 棚橋牧子    | 福永教正  |
| 大島満吉     | 齊藤進也   | 棚橋美和子   | 藤井恵子  |
| 大西義威     | 齊藤秀子   | 千野千鶴子   | 藤澤 昇  |
| 大野隆司     | 酒井重美   | 辻 容子    | 藤島寛昌  |
| 大山加代子    | 坂元威佐   | 常田純孝    | 藤田幸生  |
| 小川正治     | 佐々木喜久子 | 坪内まゆみ   | 藤間聖涼  |
| 奥山糸子     | 佐藤久子   | 鶴 和義・聖子 | 藤森久美子 |
| 小野泰洋     | 佐藤久光   | 堀越教之    | 本條秀太郎 |
| 帯津良一     | 佐藤 穰   | 泊 和男    | 本多宏子  |
| 温勢孝子     | 里見哲夫   | 砥綿隆昌    | 増田善弘  |
|          | 眞田泰輔   | 永田 亨    | 松代洋子  |
|          | 塩川治子   | 中谷比佐子   |       |

- |       |       |
|-------|-------|
| 松平静江  | 三田村慶春 |
| 黛 一子  | 宮崎直子  |
| 黛 治男  | 宮崎直子  |
| 丸山恒子  | 宮地勝美  |
| 丸山恒子  | 武藤元昭  |
| 村田正巳  | 村井繁雄  |
| もりいさむ | 村田正巳  |
| 諸星京子  | 安岡富士子 |
| きみさん  | 山浦敬子  |
| 山浦敬子  | 山浦 毅  |
| 山川 忠  | 山川 忠  |
| 山川敏明  | 山口洋子  |
| 山崎秀甲  | 山下五郎  |
| 山元絵津子 | 山本ヤエ子 |
| 横島京子  | 吉田春雄  |
| 吉永小百合 |       |

## 「団体」

- あたらしや旅館  
石田建材工業株式会社  
株式会社力ガヤ不動産  
株式会社上信観光バス  
株式会社佛蘭西屋  
学校法人森学園  
上信電鉄株式会社  
セカンドハーベスト・ジャパン  
長谷川トラストグループ株式会社

## ご寄付の応援を お願いします！

日本子守唄協会の活動は、皆様からのご寄付に支えられております。すべての子ども達が希望に満ちた未来をつかめるよう、皆様のお気持ちの託された寄付金を、様々な活動にいかしてまいります。

ご寄付をいただきました皆様には小冊子「ららばい通信」、イベントのご案内、また活動報告をお送りさせていただきます。どうぞ時期や金額に関わらず、年間を通してご寄付をお願い申し上げます。ご寄付への詳細は、日本子守唄協会事務局までお問い合わせください。

### 【寄付振込先】

- みずほ銀行 浅草橋支店  
(普)1090012 トクヒ)日本子守唄協会
- 郵便振替口座 00150-3-575309

## 皆様からのお便り・ご投稿をお待ちしております。

- ◎子守唄について疑問に思うこと・知りたいこと、子育てについて思うこと、親子の思い出話などお送りください。思い出の写真なども募集しております。
- ◎あなたの町の地域活性化のための活動や育児支援活動、町ならではの活動など紹介したい情報がありましたら、ぜひぜひお教えください。「ららばい通信」を通じて地域の情報交換をしませんか？
- ◎皆様と共にららばい通信をより良いものにしていきたいと考えております。お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

### 日本子守唄協会事務局 編集人・西館好子

〒125-0054  
東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階  
TEL 03-64458-0283  
FAX 03-64458-0284  
Eメール info@komoruta.jp  
URL https://www.komoruta.jp/



↑HPはこちら

ららばい通信ご入用の方は当協会にご連絡下さい。  
また、保存希望の施設や団体の方も合わせてお申込みくださいませ。